第 8 回　松山市中心市市街地賑わい再生社会実験専門部会
議事録

〇日　時：2017 年 11 月 15 日（水）10：00～12：00
〇場　所：松山センタービル 1 号館　4 階　第一会議室
〇出席者：別紙出席者名簿参照

次第

１．開会
２．挨拶
３．委員紹介

【事務局】
（開催挨拶、配布資料の確認、代理出席委員紹介）

４．議事
【部会長】
　はい。どうも、ご説明をありがとうございました。
　皆さんおはようございます。よろしくお願いいたします。今日、お話にもありましたが、第 8 回ということで、だいぶやってきたなあという感じですが、そろそろ 3 年くらいやってきてですね、本当にどういうことだったのかということと、どうしていくかということに関しては、ずっと皆さんで議論を積み重ねていますので、そろそろ結論を出していけるのではないかと思っています。ですので、今日は、統計資料を事務局の方に相当まとめていただいていますし、事務局が中心になってやっていただいたプログラムなど、相当いろいろな事例があがってきていますので、少し見ながら、今後どうしていきたいのかということを少し突っ込んで議論できればと思っています。何卒、よろしくお願いいたします。
それでは、まず、議事次第に従ってということですが、前回の振り返りの方を事務局からお願いいたします。

（１）前回の意見概要・結果報告
【事務局】
（資料説明　P.1-1）

【部会長】
はい。どうもありがとうございます。あの、きれいにまとめていただいて、今後の取り組み

方針というのも整理していただいていて、これに沿って、この後の、今年度どういうことをやってきたかという報告があるかと思いますが、基本的には前回大分批判的なこともありましたし、とはいえ、評価できることも両方あったんじゃないかなと思っています。一番は、もっと知ってもらうとか使ってもらっていただく方々の質というか広がりというか本当にそこを使いたくて使っている方々をどう増やしていくかということですね。そういうところが重要ではないかというご指摘だったかと思います。ここについて、何かご意見などございますでしょうか。

【委員】
　そうですね。地元で近くに住んでいる人にとっては、割と場所があるという認知は結構あると思うのですけれど、何のための場所なのか？、もっと打ち出す何かというところが出てくるともっと認知の訴求が広がってくるのではないかというイメージがすごくあるので、テーマというかもしくは、こう大きく伸びるソフト事業なのか何かがプラスされるといいなというふうには思っています。

【委員】
　私、すごくいいなと思ったのは、普段の風景で、午前中から始まって、夕方もしくは夜、明かりが消えてからですね、非常に幅広い世代の方がそれぞれ、自分たちの使いたい使い方で使っているというイメージがあります。保育園の子どもたちを散歩させたりとか、もしくは高齢者が散歩中に休憩しているとか、女子中高生が騒ぎながら買い食いしているとか、ああいう使い方を共有しているのはすごくいいなと思っているのが前提としてあった上で、市民の中では、あそこをもっと使ってイベントをしたいですとか、あそこにもっと積極的に参加したいと思っている方もいるんじゃないかなというのが、例えば、MOBURU マガジンなどアーバンデザインセンターが他の事業をやっている中で、少し感じているところですので、それで市民の背中を押したりとか、もしくは興味がある人をつなげたりとか、そういうことができてくるといいかなという気がします。

【部会長】
　この報告を聞いて、松山のこの特徴というか俯瞰的に見た場合の良さ、ここは問題だというところはありますでしょうか。

【委員】
　場があるというのは、すごく意味があるかなと思いますね。やっぱり、そこで、さっきの普段近くにいる人はいるかもしれないけれど、土日に来た人たちがあそこで何かこう過ごす時間みたいなことが提供できるかということが、まだ少し弱いという気がするのですよ。

やっぱり、定期的なイベントとかをやりながら、そこを周知していくようなことができたりとか。さっき、他の委員さんが言われたように、テーマを決めて、1週間や1ヶ月なんかそういうのをやってみるとか、周知の図り方ができてくると、よりここの存在価値が深まるのかなという気はいたしました。

【委員】
　私も子どもらが来て結構な人まあ、高校生の需要があって、確かに悪くはないんですよね。だけど大きな目でいうとおかしいですが、松山市の活性化という大きな問題からすると若い人が住んでくれると商店街のためにはなるけれど、ゆくゆくはやっぱし、あそこら辺の地域に若い人が住めれるようなものが、それに対しては非常に弱いし、矛盾した言い方かもしれんけれど、もし、中心街が相当活性化したら、あそこはひろばじゃなくて駐車場にしてくれという議論が出るかなと思ってね、非常に曖昧な位置づけでね、悪くはないけど、その後がちょっと難しい。

【部会長】
　今日のまとめみたいな感じですね。最後に聞くべきでした。
　これで、次の話題に振りたいと思います。やっぱり、その、仮説なので、実験なんですよね。その中でやっぱりやれることにも限りがあって、まあ、だけど、住民のためのものとか、訪れた人のためのものとか、いろんな側面があるので、それを全部重ねてしまうと、イメージの打ち出しとかがちょっとよく訳が分からなくなるという一面もあるということですね。ただ、それぞれは、非常に全国的に見ても稀な事例ですので、全国からも見学が来ているというのが事実なのですが、そういう意味では、実験施設としては、評価できる。最後、どうなるかというところは地元の方も不安に思うでしょうし、今日も含めて答えをそろそろ出していかないといけない状況なのかなと思っています。はい。どうも、ありがとうございました。では、次の議題としまして、社会実験の振り返りの説明を事務局からお願いします。

（２）社会実験の振り返り
【事務局】
（資料説明　P2-1～P2-5）

【部会長】
　はい。どうもありがとうございました。
　プログラムについては、できる限り、アーバンデザインセンター主催ということよりも、まあ、固有の種類というか、グループをつくっていくということで、企画された様々な自主プログラムの開発を促すということで進めてくださったようです。少し、議論をと思います

けど、どなたからでも結構です。ご意見、いただければと思います。いかがでしょうか。

【委員】
　そうですね。ずっと 3 年間の実験を続けてこられて、かなりな自主事業と地域との連携事業、また、NPO とか大学の取り組み、かなりな事業展開をされておるとは思います。で、社会実験としては、成功していると思いますが、先ほど言われたように、今後それをどういうふうな形で継続していくかですとか、地域の活性化にどうつなげていくのか、まあ、商店街との連携や回遊性、そういったものがどういう形で自主運営的に動いていくのかな、というのが感想でございます。

【部会長】
　事務局からお答えいただいた方がいいと思うのですが、いろんなサークルというか集まりをつくってこられていて、こういう方々は単発のものなのか、もうちょっと定期的にこの場所でやってみたいとお思いなのか、あるいは先ほどの言い方でいいますと、利用料のようなものを取ってもやっていきたものなのか、タダだからやっているのか、その辺りについて事務局から何か補足していただけたらいいのですが。

【事務局】
　そうですね。また、後にご報告があるのですが、ここを占用利用してくださっている方のグループインタビューをとりまして、皆さん、ここでイベントをしてくださっている方は、やりたいことが明確な方が多いので、自分のやりたいことに合わせて場所を選んでいるということで、このもぶるテラス・みんなのひろばは、オープンなところで、気に入ってくださっている、誰かに自分たちの活動を見られているという、そういうのも利点としてあげて下さっていました。また、利用料は、本当は払わないといけないと思っているけれど、でも、無料で借りられるならばそれに越したことはないという。

【部会長】
　事務局の言い方だと、最初のプログラムを自分でつくっていって広げる時には、お試し的に参加者もちょっとやるからという形で参加しています。うまく進み出すと少し有料のスペースで、まちなかのもっとまちづくり会社などがやっているようなスペースで、そこで移動してやってもらう、みたいな、そういう全体として機能するやり方は、ありえるのかなというのが事務局の実感ではないかと。ありがとうございます。他、何かありますのでしょうか。

【委員】
　大学の教員として、また、アーバンデザインスクールの講師として、両方で関わっている

時に、私どもの大学は四国で唯一の女子大で、ほとんどの学生が松山出身で、将来もほとんど出たがりませんので、結婚して松山に残る学生です。彼女たちに、この地域のことを大学とアルバイトしか知らない毎日の中で何とかつなげたい思いはあったのですが、アーバンデザインスクールは彼女たちにとって敷居が高いのです。ですので、私はゼミを中心として、彼女たちは、サポートというかお手伝いはとても上手ですので、自分で企画して何かをというのは、なかなか経験したことがないので、そこを経験させたく、お借りして、やらせていただきました。そんな時に、オープンという話が出ましたけれど、子ども向けのものをやっていたのですけれど、少し楽器を持ち込んでいましたので、目の見えない方が入ってきてくださって、一緒に参加してくださったりですとか、お散歩でやってきている、まったく実習で行っているところではない認定子ども園の子どもたちと交流させていただいたりとか、この場で彼女たち自身が考えたことができるということ、そして、地域に全部つながっているということがとても大きなことだと、私の大学の学生たちを考えれば思うのですけれど、なかなか私だけのゼミだと人数も少なく、そもそも人数も少ないのですけれど、もう少し大学を上げて交流させてもらったほうがいいのではないかと提案はしているところです。

【部会長】

なるほど。深いですね。あの、若い人が松山に定着してもらう文脈で地方創生とかやられていて、だけど、アルバイトと大学だけという人は実際に多くて、第 3 の場所っていうかな。そういう意味で社会と自分がつながれるんだという時に、何もかも「自分が、自分が」ではなくて、そういう人もいて、自分もサポートする側とか、いろんな形の参加のきっかけが考えてつくっていくっていくことが大事というかご提案というか、経験をふまえて。確かにそうだなというか、ありがとうございます。

【委員】

あの社会実験としては、一生懸命担当の方もやられていて、良かったのではないかと私は思っていますが、本当に間近で見ていますので、最後に話した方がいいこともあるかもしれませんが、自分は住んでいる人間としても、商業者としてもここに関わっていますね。この会の流れを見る中で、今仰ったように、いろんなありとあらゆる方が拠点として捉えるためにという目的が一つはあったと思うので、それは、進捗度合いはまだまだだなと。

あとは、文化の話ですとか、そういうことを観光につなげるということをずっと言っていたはずで、良かったらそれをチャレンジしませんか、というところで、去年は止めていて、そこまでは今回踏み込めていないかなと。それは、あまり欲張っちゃいけないので、そこはしんどいところなんですけど、いわゆる、外国の方もいらっしゃるんで、ご存知かと思いますけど、今、大学って、留学されている方って増えているんですね。いろんなイベントをやっていますと、ここで何かをしたいと結構いろいろ言われていたりして、一番ピンときたのは、ハラル、イスラム系の方の食事のところで、安心して行けるマークをまちに広めるには

どうすればいいのかというアイデアを出してくださいということを、私が主催しているイベントで言ってきたりとかしていて、そういう人たちもこのアーバンデザインセンターのこういうところで何か活動したり、加速するとか、そういったようなことを、一つまあ欲張っちゃいけないんですけど、考えることも一つだったのかなと、いうことも考えます。

先ほどのご意見のようなことは、実はずっと個人的な、自分が生まれ育った時の環境のイメージがあるんですけど、私が生まれ育った時って、ボーイスカウトやYMCAが全盛の時で、ちょっと上がって下りて、所謂、バブルの時に小学生の前半なので、そうなった時に、ボーイスカウトやYMCA・学生主体で、ボランティアで子どもとかいろんな方がDIYなど体験学習をいろんなところでしていて、学生って大学とバイト、これ基本ですね。そこしか移動しない学生がほとんどですね。あとは、サークル活動とか。それをまあ社会的なところ、たとえばまちであるとか、こういう行政とかでも大学時代に参加しているようなことに参加するような機会っていうのがどういうふうに、というか、なかなか誘導しても難しいところがあるのですけど。でも、例えば、こういう活動をやっていくようにすればできるのかなと、ずっと。まあ、すみません。これは自分が担当ではないので、人事にみたいに偉そうに言っちゃいけないと思って、今まで言っていなかったのですけど、総括をしていく段階ではそろそろこの話かなと思っているんですけど。そういう場所になっていったりとか、例えばレインボーハイランドでYMCAが活動するのは自然があるからで、例えば、学生もYMCAをやりながら、いろんな活動の範囲が広がるかもしれません。こんな場所があるなら、今度はここで焚き火をしてキャンプファイヤーをするとか。そういう発想が広がっていくという感覚の場所に、まちなかのここがなるというのが、一つ本来最後の理想ですよね。欲張ってはいけないですけど。というところもあったのかなという気はしていて、そこまでは説明していないとしても、なんといっても、社会実験は非常に成功していると思ってます。

ただ、1個言うとしたら、ほとんどまとめみたいになってしまうのですが、周辺の環境に非常にいい影響を与えたことはあれなんですけど、現実問題実績として、その間隣にある商店街の空き店舗は非常に増加しています。めちゃめちゃ増えています。私も持っていて、貸そうとしても、借りようとする人がいない。で、家賃はというと微妙になっちゃったんですね。固定資産税も含めて、裏も表の部分は非常に矛盾が生じています。で、これはまあ一つ、開発の話が出ているからというのもあるんでしょうけど、あの、ちょっとその辺が経済的な部分がどうなのかなというのと、もう一つ、一方で周辺のというか、住んでいる人間として、私の子どもが自分で勝手に遊びに来るようにならないかなと思ったのですけど、何回か連れて来て、で、レゴがあった時は「行きたい行きたい」と言っていたのですけど、それ以外は「行こう」と言うと、「ああ、あそこね」みたいになるんですけど、私と行くときは、ああとなるんですけど、子どもたち、つまり、同級生とか放課後に遊びに行くとなると、まあ、安全だからというのもあるのでしょうけど、圓光寺が多いですね。うちからの距離は一緒くらいです。ちょうど真ん中くらいなので。なんで、こっちに行かないのかなと思ったら、逆に言うと、小学校にとっては、年配の人がいっぱいいると遊び難いとか、遊具とか、そうい

うことなんでしょうけど。
　まあ、じゃあ、住んでいる人にとって、この場所がとなると、景色としては学生がいたり、中高生がいたり、非常にいいですよ。住んでいる人、子育てになると、まあ、子育て世代、リタイヤ世代がいらっしゃっていると聞いています。ですから、その人たちにとってどうなのかなということになると、ああ、まあ、目的とかも違いますし、すみません。欲張っちゃいけないので、これは、あれなんですけど、まあ、一方でそういうところもあるのかなという印象を受けております。
　あと、利用者が増えた理由はですね、私は子どもを連れて行くのでよく分かるのですが、あそこにポケモン GO のジムができて、伝説ポケモンとか出ると。それだけで、1 日 100 人単位集まるんですね。だから、そういうこともいいことなんですけど、それがどう影響しているかという分析は必要かなと。すみません。総じて成功だということが言いたかったんです。欲張るとそういう話が出ます。すみません。

【部会長】
はい。どうもありがとうございます。近くにお住まいになられていて、非常に多面的な観点から、今年度の知見も含めてトータルな実感等、こうやったらいいんじゃないかというご提言があったんじゃないかなと思います。ありがとうございます。時間がきていますので、次の話を聞きたいと思います。

（３）効果検証
【事務局】
（資料説明　P3-1～P3-8）

【部会長】
　はい。どうもありがとうございました。
　それでは、効果検証のところですけれども、いかがでしょうか。

【委員】
　はい。効果検証というより、予想以上にイベントとか、増えているかと思うんです。それはとてもいいことなんですが、一つ不安なのが、そのリスク管理。その自分が主催だったらいいんですけど、別の方に利用していただく時、そういった時の安全というか安心ですよね。これもちょっともう少し検討していかないといけないのかなと感じました。

【部会長】
　どうですか？事務局。その、安全管理とか。まあ、なかなか難しいところもあるんですけど。現状でどういうことができそうで、有料化したらこんなことはやらなくちゃいけないの

かなとか、あとバリエーションを増やしていくと当然リスクが上がってきたりとか、何かあれば。なかなか難しいですよね。

【委員】
例えば、障害保険に入ってもらうとか、はじめに。それを前提に使っていただくとか。

【部会長】
保険？

【委員】
そうですね。イベント保険とかあるので。

【部会長】
そうですね。

【委員】
そこら辺の対策を何かしておいた方がいいかもしれないですね。

【部会長】
予約の仕組みとか、そういうものをちゃんと仕組み化していく中で、恐らく次に有料化だとか、あとここでずっと続けていくかということも含めてですけど、ただ、UDCM の事務局の方々がすごく努力されて、結構いろいろな方との関係は着実にできてきているので、そういう方に対して、じゃあこういう契約の形態とか安全面での管理とか提案させていただいて合意がとれるという形を考えていくというのは、次のステップとしてはあるのかもしれないですね。

【委員】
それをどっち側が担うか。利用する側が担うのか、貸す側が担うのかというところの、ルールをもっとつくっていったほうがいいのかもしれませんね。借りる側がそこも含めてリスク管理も含めてやってもらうという話なのか、リスク、そこも含めてやって賃借料を少し高めにもらうとか。

【部会長】
六本木 ARTS NIGHT で火災があって、死者が出ましたけど、ものによっては当然そういうリスクというのが蝋燭を使ったりとか、当然ああいうところですから、やりたくなってきますので。やっぱりそのチェック項目なんかをちゃんとつくっていくとか、あるいはそうい

う際にじゃあ、どういう連絡の手順でこう危機管理がされるのか。それで先ほどのご意見のように、確かにどっちの側が責任を負うのかということは、あまりやりすぎると敷居が高くなるし、まあなんだけれど、無料だからとか有料だからというところも、まあ、ただ、整理はできそうなところまで結構、事務局でもいろいろやってくださって、プログラムにもいろんなバリエーションがあるっていうことは分かってきているので、それをどうデザインしたらよいのかというのは、ちょっと今後考えていきたいと思います。ありがとうございます。
他、効果検証についていかがでしょうか。

【委員】
もぶるテラスの利用者アンケートで、年齢層、性別を見て、年齢層は 60 歳以上がほとんどおらんですね。、結構近くにおるけん前を通ったら、若い人 10 歳代 20 歳代の若い人なんか、ジュースなんかを飲んでいるとか分かるんですけどね。60 歳代以上を排除しとるという訳ではないけど、これ見たら、ここ少ないけん、世間的には結構年寄りが多いけん、この人らをはめようかなということはいっさい触れられていないけんね、そこらへんはどういう風に考えていくのかなと思ってね。事情は分かるんですよ。商業地やけん。案外年寄りでもぶらぶらしおる人がおらん、これは住宅地、住居地域やったら、年寄りは結構集まるけん。でも、総括する上においては、これは 60 歳やけど、こういうて少ないんですよとかなんか一言欲しいなと思ってちょっと言うたんですよ。

【部会長】
高齢者の方向けのイベントっていうのは、多分考えていってもいいんじゃないかなとは思います。今は確かにちょっとお洒落な感じもあるので、高校生とか若い方から当然人気がくるのは分かるんですけれども、閉じている訳では決してなくて、多分なんかそうですね。ちょっとよくわかんないけど、よその地区なんかだと将棋大会とか囲碁大会なんかをやってみると結構人が来て、ずっとたまって非常にいい時間を過ごしておられたり、するので、そういうのをやってみたりとか、多分いろんな使い方があるので、少し、シニアな方々への何か企画案みたいなことをちょっと考えてみたら非常に我々にとっても面白いですよね。そういうことを、ぜひ、考えていけたらと思います。ありがとうございます。
他、いかがでしょうか。

【委員】
あの場所を地縁型のコミュニティの居場所というか、まあサロンみたいな形にしていくのか、テーマ型のコミュニティで、なんかこうやりたい人たちが集まってやっていく場にしていくのか、っていうのは両方、なかなか一緒にっていうのは難しいというのがあるかもしれんなあと思うのですけど。まあ、あそこの立地を考えた時に、どちらかというとテーマ型なんか NPO なんかこうやりたい人が集まってきて、なんかここでパフォーマンスをして、

いくような流れがあるかなって。でも地域にとってみたら、さっきのサロンみたいなものがそこで、なんか開かれるみたいなことは意味があるかもしれんなあという気もするんですね。その辺の住み分けみたいな、目的からすると、僕はテーマ型で特化した方が、あの場所としては面白いと思うんですけど、地域のさっきのニーズみたいなことをこう拾っていった時に、なんかそういう高齢者の居場所みたいな場所としてですね。

【部会長】
　まさにそうですよね。難しいですね。

【委員】
　違うんですよ。まあ、言うたら、白黒はっきり言いたいので、これは、先生が言われたように、こういうように特化しとるけん、これは少ないけん、これはしょうがないんですよって言うてくれたら。話が曖昧で、こっちの道、こっちの道、両方曖昧にする必要はないんで。

【部会長】
　最後は、こういう広場だっていうことをやっぱり判断してやるっていうことでしょうね。

【委員】
　そやけん、あそこを見たら、みんなが若い子がジュース飲んだり、昼に飯食ったり、あれ、何の施設ぞと言われた時に、どういう言い方をするかだけの話であって、いかんとかはいっさい言ってないんですよ。まあ、年寄りは少ないけん、っていうかまあ、どういう風に思うというか、そういうだけの話で、いかんとかいいとかではない。

【部会長】
　地元としては、どういう？　テーマ型というのが場所柄いいのではないかというご意見がありましたが。

【委員】
　それでいいと思うんですよ。実際、近くを見てもね、まあ、年寄りがおっても仕事しよるんですよね。で、やっぱし、仕事がすんだらそういうところに来るより休憩したい雰囲気が多いなあと思うんですよ。そやけん、住宅地やないけん。商業地やけん。商売する年寄りはおるけど、ぶらぶらする年寄りは少ないかなという気は持っとるんですよ。

【部会長】
　効果検証の中で、来ている人は割と近くの方が来ているのかなという印象なんだけど、圏域というのは感覚でいいんですけど、どんな感じですかね。かなり広いところからきていま

すか？それとも、近くの人？

【事務局】
　広いところが多いです。ただ、ご高齢の方ですと、地域の団体がミーティングの度にご利用くださったり、地域の方のご利用もありますね。ご高齢の方は、近くの方、よくお見かけする方が…。

【部会長】
　コト、テーマを立てると、やっぱ、広いところから来るんですか。

【事務局】
　そうですね。

【部会長】
　ジェネラルなとか、サークルの活動ということで選ばれると、近いところの人が選んでいる？

【事務局】
　そうですね。

【事務局】
　来街のお年寄りの方は、ひょっとすると、もっと身近な銀天街とか大街道のベンチとか、たとえば、きらりんとか、より近いところに座っているようなイメージはありますよね。

【部会長】
　ただ、確かに質の高い場所をつくりたいのは、やっぱりあったんですよね。これをつくった時に。だから、ご高齢の方とかでもこういう場所で休んでもらっているから、やっぱちょっと話の交流のところもちょっと広まる。で、自分たちだけでなくて、ちょっと子どもたちもいる、そういう質の高い空間っていうのがまあ、そう、お寺っていうのももちろんありはするんだけれども、もう少しまちなかにあってもいいんじゃないのかなと思ったんだけど。ただ、やっぱりサークルみたいなのを増やしていくとね。なかなかそこも難しいねということがあるんですけど。イベントする側からしたら、どうですか？

【委員】
　今来ている人は 10 代、イベントしている人は 30 代、どちらも女性。じゃあ、地域にとってはというと、嫌いと思っている人は減っているけど、利用する意識はまだまだ少ないっ

ていう現状だと思うんです。整理すると。その中で、その地域で考えると、商業エリアであり、住んでいる人もいるエリア。商業であれば、商業の観光であったり、商店街活用、中心市街地の人を増やすことに寄与する場所になるべきなのか、地域の人にとっては、住む人を増やすであったり、子どもを遊ばせられる、高齢者の方が充実して使えるっていう、そういうハードなのか、両輪なのかっていうのをあの場所が何をテーマにして担うのかっていう、何か一つ決めると、ああ、そこはそういう場所だよねっていう風に。てくるんは子どものための場所だよね。でも、実は子どものため以外にも、お母さんのためのものもあるんだよっていうのとか、どれを選んでどの効果を伸ばすか、どこで軸を取るのかが出てくるのかな。

イベントは、お城下マルシェは僕も行かせていただいて、花園も行かしていただいて、お名前知っている方がたくさん増えているので、これは、数を重ねていって、その中でどれだけやっていくか、っていうことが非常に重要だと思うので。「中心市街地でやっているイベントと連携を密にしましょう」であったり、もっと増やせることはできるのかなと。

【部会長】

はい。ありがとうございます。イベントごとは、松山市さんも非常に公共空間の整備に尽力されて、少しずつ増えてきているところもありますので、そういうところを舞台装置にすれば、もっと圏域が広がった形で、松山全体を回遊する中で、中心市街地もあるという、そういうことは多分できると思うのですけど、この場所じゃないといけないかというと、それは住んでいる方も結構おられますので、少しそこの役割を決めていくということは、次に向けてできそうかなと思っています。だから、事務局がいろんなサークルをつくられているので、ここじゃないといけないかというと、多分もうちょっと場所があれば散っていってもいいし、近くの方が使っているのは、多分「ここじゃないといけないし」と思うので、そこの峻別をうまくしていくということが大事かなと思うのですけど。この効果検証のところで。人は確かに結構増えているし、認知も高まっているようではありますが、ただ頭打ちというのもそろそろ出ているかなというのも思ったりもするし、どうでしょうか。

【委員】

さっき言った総じて成功だというのは、もう限界が絶対あるというのと、正直、ひろばの使い方など、有料化の話とかもしているんですけど、結局、何のために、どこを重点的にというところになってくるんですね。だから、そういう意味では、逆に、現場の方が頑張っているのが見えているのも含めて、成功だとは言いますし、公的なお金を使って実証実験をするというのは、一つの結果が出たし。一番良かったと思ったのは、デザインが時間が経つにつれて、いいデザインは味が出てくるというか、それはあるなあと思って。ひろばは非常にいいデザインだった。これは思った以上に本当に。ただ、一方で多面的にいろいろ話させてもらいますけど、一つは、周辺の来街を促すとか賑わいを促すのであれば、そこにもともとあった駐車場を潰してこれをつくったことによって、しかも、駐車場からすぐにアーケード

に入れる位置にあったものを潰して、まあ、そういうお金を使って、作った以上はそれにあった受けを考えなければいけない。ま、それは民間のことなので、あまり言えないんですけど、実はそれで、駐車・駐輪場のことを考えなければいけない。今回、ハロウィンで「降りてください」っていうのがあるじゃないですか、おばちゃんが立っているやつが。仮装で学生がみんなやっていて、行進していたんですよ。「俺たちを弾くのか、このまちは」と。これ、誰がやっているかというと行政がやっているんですよね。市民の要望でやっているんですけど、何が言いたいかというと、銀天街、大街道を走っていたと。逆に言うと、安全、安心をずっとやってきて、で、アーケードがあると。雨が降らない。年配の方は、そこのベンチにゆっくり座りたい。ちょっとそれはニーズの一つであるし、それをするにあたって、銀天街大街道は歴代警察とか行政と話してきながら、かつ、ルールを徹底させられてきて、徹底してきて、だから、例えば、ワンタイルしかはみ出してはいけないとか、そういうことをやることによってやってきたんですよね。じゃあ、このひろばはといえば、このひろばの周辺を含めて、ルールを守っていない人がいっぱいいますよね。これ、どうするんだと。私、車を運転していて、標識が見えないのも知っています。あそこを貸すっていうのも分かるんですけど、危ないですよ。正直。車、誰が責任取るんですかとか。じゃあ、法令違反をしているお店なんかもそうなんですけど、あれ、誰がどうするんですかっていう話と、もっと言うと、銀天街大街道は道路占用料、お金をいっぱい払っているんですよね、行政に。皆さん、これ、以外に知らないんですけど。で、それをここでやった時に、どういう経済効果で、どう比べるんですか。意外に相当払っている、ある度に。申請も含めてね。そういう関係をやってきた人が隣にいる訳ですね。大街道、銀天街。その中で、この社会実験の範囲をどこまで広げるんですかとか、何を目的にするんですか。さっき先生が仰ったように、その目的でやるからよろしくねって言われたら、そりゃ銀天街大街道は、なるほどねとは言えるんですけど、いったい何のためにやっているんですかと聞かれたら、答えられないんですよ。まあ、僕はここでこうして見させていただいて、それに関しては非常にいいと思っていて、こう話すことはできるんですけど、何でもかんでもやっていくと、それはルール違反でもオッケーなお上がやりゃあ、官軍がやればできるんだろうねという話で終始してしまうというか。っていうくらい、ずっとここは色々あってですね、実は。もうできた時から商店街側の先輩方からですね「お前、行政に言え」と実は言われているんですよ。ちょっと待って。実証実験だからって。

【部会長】
　まあ、ちょっとネガティブな意見が多いと。

【委員】
　そうそう。店舗がルールを守っていないっていうことがあるんですよ。その代わり、行政の方は、商店街に厳しかったんですよ。だからそれはどういうことなの？というのと、自転

車の降りてくださいって、これいろいろあって、一概には言えないんですけど、非常に矛盾した箇所が行政の縦割りによって、いろいろ言うことが違う中で、商店街は全部商店街のせいにされて、ここに関しては、アーバンデザインセンターっていうところが「いいんだいいんだ」と言っちゃうと、それが良いように聞こえてしまうという。この辺の矛盾点もまあ、入り難いところかなあというのが一つ。

最後に、先ほど仰った60代の方ですとか、若い方とかいう話。若い方が多いのは中高生が最近いらっしゃいますよね。登下校で集まる拠点になったという。これは、非常に良いことだと、僕は思っています。ただ、問題というか、社会実験の難しいところで、誰のための空間でどうしますか、いや全員受け入れるためですってやっちゃうと、まあ、結果的にその子たちが占拠したという見方になってしまう。成功だと思うんだけど、そういう見方もあるという。で、それがまあ、多分半公益なんですよ。だいたいそういう方って。じゃあ、そういう方を何のためにここに呼ぶためにお金を使っているのかっていう話に当然なってしまう。まあ、だからそのへんがちょっと実は進まなければいけない部分なのかなと思いながら、これがなくなった後に、また駐車場に戻る可能性がある、まあ、いろんなことがあって、じゃあ、どっちがこのまちにとっていいのかとか、それだけ、逆にこのまちにこれがあることによって負荷をかけているという見方も出てくる。まあ、社会的な問題ってだから難しくて、だからこういう実験をするっていうことなんですけど、その辺の効果検証はきちっとしなければならないと思うんですけど、安易に有料化をしてやるっていうことは、相当な話が出てくると思っています。で、これは一般市民の人が知らなさ過ぎるので、ここを有料化でいいから貸してくれって出てくるのは分かります。大街道銀天街の仕組みを知らない人が多すぎる。だからこれ、やっぱり、近隣の音の話とか、金をもらってしまうと文句言えなくなってしまうんですよね。今すぐやめろっていっても、払っているからと言われたら勝てないですし、先にああした言い方はおかしいですけど、そういう絡みで我々まちとしても文句言えない輩って言っては何ですけど、そういう人たちが出てきてますから。まちには。広告テレビの話ですとか。ガンガン出しても、こっちから言えないんですよ。行政には、道路占有料、広告費を払っていると言われたら。「そうですか」と。行政は、ルール上OKだったら言えない。近隣はうるさいし、警察とも連携するけれども、なんとなく分かりますよね。でも、そういう話とかが現場では起こるんで。有料化するっていうのは、相当色々考えてやらないと大変だと思いますね。

【部会長】

ありがとうございます。やっぱり地元としては、正直ネガティブな評価が結構あるというのは、当初から言い続けておられるんで、相当根深いものがあるんだろうなあと思います。だから場所というより、やった取り組みや実験機能がまちにあるっていうのは、多分、概ねいいんだけど、この場所で、商店街との関係も含めて、本当にこれで収めきれるか？あと、有料にした時にこの場所で今の仮説的なことで本当にやっていけるのかの整理が必要だと

いうご意見で。まあ、ちょっと他の意見の方も多分おられると思うんですけど、まあ、そういう意見もあると。で、ただその時も素直に取ると、やっぱその場所みたいなものは少し、他のオプションも含めて、あのこういう機能が松山市の中にあることはいいんだけど、ちょっと考えてみてもいいじゃないかと、先ほどの意見を素直に取ると、そういうことはよくないと思います。

あと、まちには駐車場機能が必要かということに関しては、ちょっと今の時代の流れから言うと逆行するような感じがいたしますが、一方で、商店街の駐車場がないといけないということは、切実な問題として理解はできるので。まあ、それはそれとして、整備していく必要はあるんだろうなという気はちょっといたしました。

もう、総括の話に入っていいと思いますが、えっとどうですかね。ここまでの意見を考えると、この社会実験ということからすると、これだけプログラムを積み重ねてこられて、プログラムをこれだけ運営できるっていう機能は間違いなくついた。ということは、地域との合意ルールの取り方ができると、それによってある程度、まあ、交通量が増えているっていうことも出ていますので、そういうことをつくることはどうもまあできそうだっていうことは、まあ、ちょっと出てきているのかなあと思います。えーっと、総括があるのかな。ちょっとどきどきしますけど。まあ、そこを踏まえて総括のところで、4 の効果検証に基づく課題と今後の方針について説明してもらっていいですか。

（４）効果検証に基づく課題と今後の取り組み

【事務局】

（資料説明　P4-1）

【部会長】

はい。どうもありがとうございました。ご説明にあったように、29 年度の成果・評価としまして、あの指標そのものはポジティブなことがほとんどなので、評価は出ていると思うのですけど、さっきから繰り返し言われているように、ここには出ないようなネガティブな意見もまあ根深いというか、基本的に商店街との関係もありますので。これどこでやってもそうなんですけど、そういうことは常にあるということだろうと思います。まあ、ですので、有料化先にありきということではなくてですね、まあ、持続的なやり方の検討を今後は深めていきたいと。あとは、賑わい再生の手法の検討ということで、まあ、場所をデザインして、プログラムをつくっていって、まあ、関係性をつくっていって、あと自立化させるという一連の系をここまでずっとやってきていますので、もう 1 回リファクタリングというか、再調整して、しっかりした松山のインフラに、仕組みそのものをしていきたいということで、今後の方針が事務局の方から説明があったと思います。時間がたっぷりありますので、まあ、具体的にどうやりたいか、ただ、なんつうかな、公共がやっているということなんで、まあ、部長なんかともよく話すんだけど、パブリックなことっていうことが、やっぱりこういうと

ころでやっていくっていうことに関しては、まあ、議論はないと思うんですよね。ただ、民間の方々がやっていることと抵触しそうとか、近所の方と少し軋轢が出るみたいなことを、本当にこの場所でいいのかということは、多分議論があった方がと思うのですけど。そこが、僕らがその時に言われていたように、何のための場所なのかということをはっきり説明できれば、整理はできると思うんで。たとえば、この場所をどうするかということと、あと、今、アーバンデザインセンターに溜まりつつあるこういった機能をどうするのかということ、これをまあ、一緒に考えてもいいですし、少し分けて考えてもいい議論ができると思いますので、様々なご意見をいただければと思いますが。

【委員】

やっぱり僕は、さっきのテーマ型というか、そこの活用、今後の方針のところで書いていないので、コンセプトとして、こういうやり方をしていくみたいなことが明確になる必要があると思うんですよ。さっきの仕組みみたいな形で言うと、最近、スクールにも関わったりしてですね、街と関わる人たちの玄関口というか、そのなんかいろいろやりたい人たちが、中心部に、松山の大街道銀天街を含めた中心部に関わっていこうとする時の窓口機能として、ここでスタートアップ、こんなことをやりたい人がここでできるとか、そういう役割はすごく意味があると思うのですよ。それが、まちを少し豊かにするとかいう動きにつながってくるのかな。そういう価値、場所ということをちゃんと訴えていくことが大事かなと思います。で、いろんな人がまちに関わることは本当に大事で、受け皿としての最初の入り口としてあればいいかなということが一つです。

あとは、部会長が言われたように、自立に向けてどうサポートできるかみたいなところがあって、僕はそこが有料の仕組みとして可能性があるのではないかという気がするんです。で、場所はまちなかにいろいろなところがあるかもしれないんですけど、多分、それをやろうとするステップを上げていくサポートをしていくんだみたいなところにいくと、さっきのテーマ型で言うと、いろんな人たちがそこに関わってやるべきテーマを持ち込んできて、そこで、気付いてやっていくみたいな話が増えたらいいかなと。

いろんなことをそこで起こしていくみたいなものですね、中間支援的な役割を含めて。

【事務局】

確かに、場所貸しの機能は他にもいくらでもありますけど、UDCM は今こちらにいらっしゃる委員の皆様もそうですし、関わっている人々の幅がものすごく広いと思うんですね。そういう知見に対して、お金を払うっていうことは可能性としてあるのではないでしょうか。個人的には、スクールも社会人は有料化していいと思っています。知見を UDCM の武器として有料化するっていう方が、確かに現実味があるというか、何のために UDCM があそこでやっているのかということが分かりやすいのかなと。それをひろばとか、この社会実験、あくまでひろばとかテラスで賑わいを再生するっていう意味合いでやっているので、そ

こと、どう絡めていくのかっていうところもちょっと気になります。

【委員】
広がっていく。ひろばとテラスだけではなくて、まちに広がっていくようなイメージかな。

【事務局】
ああ、なるほど。

【部会長】
そうですね。仰るとおりです。ありがとうございます。
まあ、今までやってきていることを結局何のためにやっているかという時に、その、まちで活動する人を増やしていくんだとすると、その人のための場所を、こういう場所がいいんじゃないか、そこでやりたいんだったら、こういった仕組みでこうやったらいいんじゃないか、ということをコンサルティングできるようなエリアマネージメントのもう少し上位のなんか概念のように思いますけど。まあ、そういうことが、そろそろできるんじゃないかというのが、確かになあという気がします。

【委員】
すごく共感しました。僕が思っている大事なことは、それが、商店街側といかにつながるかというところが、問われているのだろうなという気がするので、資料 3-6 ページですかね。近隣の店舗にインタビューしに行って、テラスやひろばを使ってみたいという店舗は、16%しかなかったんですけど、125 回答のうち 16%ですので、20 店舗くらいは、使ってみてもいいかなと考えているとすると、そういう人たちとの連携の可能性をきちんと探りながらですね、実際にやってもらう、ワークショップとかをやってもらうというのが少し地道にはじめていくということをやってもいいのかなという気がしています。

【部会長】
ルールの話が再三言われているように、相当注意を払わないといけない。その時に、今の場所で、すごく縛りが大きいところであるのは事実なのですよね。商いの実験っていうのはいいんだけど、たいていそういうのって、もうちょっと裏の方とかちょっと離れたところで、賃料も安いところでやったりしていますけど、それはある意味ルールも比較的緩いからなんですよね。ちょっと今の場所でとか、どういうことかということはあるんですけど、いずれにしても、まあ、あのセンター側としても、そういうものっていうのは業務としてやっていけるんではないかということですかね。

【委員】

恐らく、このお店の方々が考えていらっしゃるのは、お花屋さんがフラワーアレンジメントのワークショップをテラスでするとか、そういう自分がやられている商売と関連するイベント等をやっていきたい、そういう考えだと思うんですね。それくらいのことで、新しいビジネスがやりたいというのではなくて。

【部会長】
そうすると、商店街の方が持っている場所の方がいいのかもしれないですね。その商店街のためということでいくと。あと、開いた場所でっていうと、他の業態で開きたい方、その時にちょっと競争関係とかあると、こういったところの整備が必要かなと思いますね。どういったところがいいとかありますでしょうか。

【委員】
それこそ、中間支援的な、商店街のためなのであれば、昼間の商店街が店舗、自店舗では狭すぎるであったり、自店舗は作り込んでこうだって決めているので、そのプラスアルファの場所として、あそこを自由に使えるようであったり、もしくは、お客さんもプラスアルファのために自由に使えるようであったり。で、参加するプレーヤーを増やすのであれば、プレーヤーたちが育つためのフィールドみたいな。やる場所は別でもいいと思うんです。それこそ「堀之内をやろうとか」「花園をやろう」のフィールドの 0.5 として、あそこが育つ、育てる、苗木まで育てる場所として必要っていう部分、また、どっちかだったらいいなと思います。どちらにせよ、個人的な感想ですけど、道後でイベントをやらせてもらった時に感じたことですけど、ネガティブ面にフォーカスして解決していくっていうスタンスを取るのか、ポジティブ面をどれだけ伸ばして、効果に対して良かった部分を見てくださいというようにアピールするのかによって、持って行き方が違うと思うので。その辺りは、主体っていうところが、目的を持っていただいて、この効果を出すんだという数字でも客数でもそれは結果でも、これを何かしらポジティブに出す、それともネガティブを解決するのかどちらかと聞かれると、先ほどの話にもあったように、皆さんとお話する時にその面をしっかり評価してもらって、できているかできていないかっていうところを見てもらうのが、行政のやる事業なので、必要ではないのかなと思います。

【部会長】
どちらかというと、こう、ポジティブなところをというのが、まあ、あると思うんですよ。ただ、現在の商店街で十分ポジティブだろうという話なのか、もう一段つくるのか、というところ。もう一段つくるとなると、当然軋轢も出てきて、そういうところを受け入れられるか、まあ、受け入れられないか。受け入れられないとすると、そういう場所が松山にもし必要なんだとすると、もう少し別の場所ということになるかもしれないし、そこにそのパブリックななにか、パブリックというものがちゃんと言えるかどうかということもありますよ

ね。個人の商いとしてやっている分には、その中の集まりの中で用意すればいいと思うようになりますから。まあ、一方でネガティブということでいうと、まちなかで言えば、都市公園が少ないんですよね。ただ、都市公園、公園としてやるということであれば、それは近所の方々のスペースとして、静かな場所として、居場所としてつくる、ということは当然あってもいいと思いますので、そうであれば、そういう作り方になる。それはまあ、二つくらい方向性が生じるのかなと、まさにその通りだなと思います。

【委員】
友人が、ここ 1 年間銀天街に飲食店を出していて、こんなにも夜の人通りが少ないと思っていなかったという話をしていて。夜、とにかくお客さんが入らない、昼間は入るらしいのですが、ひろばが夜もオープンしたって聞いた時に「よかったな」と。そもそも、公園は夜でも開いているのに、どうしてひろばは開いていないんだろうとずっと思っていたので、すごくいいとは思うのですね。で、これは全部の効果検証じゃないですか。人通りも含めて。なんか、松山という場所は日本でも有数の「家の夜」を楽しむ地域とは聞いたことがあるのですが、大人も会社と家だけなんじゃないかなと思うことがあるのですよね。もう少し、家庭じゃないところに、主婦たちが外に出られるといいなと思ったりした時に、少し安全で、魅力のある場所がもっとあってもいいじゃないかとはずっと思っていました。

【部会長】
確かにね。人口一人当たりの飲み屋の比率は、松山、一番高いのでしたっけ？　確か。結構高いんだよね。店が多いんですよね。

【委員】
ただ、私は東京の者なのですが、松山の皆さんは 9 時前に帰っていくのでびっくりする。早いんですよ。

【部会長】
皆さん、電車で帰っていかれるから。だから、むしろ市駅前のあたりの方が公共交通機関が近いから、最近、飲み屋に入ったりというのがあったりして、ちょっと重心が変わったり、いろいろ変化があるんだけど。

【委員】
お答えします。あとで。全部、歴史と理由があるんです。

【部会長】
まあ、夜はかなり軋轢が起こりますよね。色々やろうとすると。まあだから、ルールづく

りはあるんですけど。

【委員】
　私の場合は、観光物産とかまあ、そういった方向の面からの立場で考えますと、当然、この社会実験の中での成果があればいいし、当然継続していって、地域としての拠点としてのものとしては成り立っていくのではないかと考えています。ただ、大きな意味で、松山市の中心市街地の賑わい活性化という大きな括りで物を言うと、当然、規模的なものも十分ではないし、その範囲についても今、一街区の中での検証みたいな形になっています。その街区でそれが一つ検証されて、そういう形でいろんな取り組みをやっていったらいいな、それと、ここが一つ窓口になって、次の広がりといいますか、その市内全域をそういう形でいろんなフィールドがあっていいと思うんです。場所も規模も。そういうふうな形で。今、特に、まちづくり松山さんとかお城下松山さんとかそういったところが色んなことを実際に色んな場所でやっていただいています。当然今回、花園町通りについてもお城下マルシェさんが行って、そこのフィールドでいろいろそういうものをしていただいたり、あと、ロープウェー商店街についても、門前市を定期的に開催していこうというような動きになっています。そういった動きが入ってくると、当然、地域の文化の発信であったり、情報の発信であったり、当然、それが観光にも結びついてくるというような活性化になっていくのではないかな。そういうような中では一つの起爆剤として、こういう手法としてはあっていいのではないかなと。それを各地域につなげていったらいいのではないかなという風に思いますね。

【部会長】
　アーバンのプログラムを開発して、根付かせていくというところは、一応ひと通りの成果は出つつあって、そこを広げていくという時に、規模を大きくするっていうパターンと、拠点を増やしていくというパターンがあると思うのですけど、これ、まあ、どっちも可能性があるものなのか、それとも、そこまで予算はないよということなのか、その辺りはどうですかね。一定の効果があるっていうことは、結構まあ、パブリックに市がある程度お金を出してやっていくっていうことには、意味があるってことは出ていると思うので、僕自身はどちらかというと継続した方が良いと思っているのだけど、まあ、自立という側面はあるけれど、ただ、そうだとするともっとさらにそれを広げていく、規模を大きくする時に、まあ、少し、自立みたいなのがある。その拠点を増やすというのと規模を大きくするということに関してはどうですか。

【事務局】
　まあ、都市計画の観点からも小さな拠点と言いますか、地域ちいきのあるべき拠点というのをいくらかつくっていくということは大事です。そこで、再構築しつつ、やっぱり、地域と地域の関係性を見直していくっていうことも、それであると思うんですよ。それでつなが

っていって、全体的に広がっていくっていうのが、いいのかなと思いますので。やっぱり、例えば、銀天街、L 字、市駅とか、花園とか、あとまあ道後とか一番町とかいろいろあると思うんですけど、そういった地域の拠点を磨きつつ、それぞれの関係性を見直す必要性がある。関係性というのは、地域と地域の関係性というのが、少し、向き直していくということもできると思うので、それで、ネットワークが更にですね、やっていくと、結果的に全体に広がっていく、というシナリオの方がいいのかなと思っています。

まあ、それは、アーバンデザインセンターが担う部分もあるし、地域が担う部分も当然あるので。

【部会長】

拠点は確かに、ちょっと増やしていく、そして運営の仕方をちょっと工夫しながらというのはあって。それに、そこの地域に入ってくる人のサポートと、プログラムのデザインとで、まあ、その地域なりのやり方に落ち着かせていくということは、あの今後の発展の仕方としてはあるかなという感じはします。

【委員】

銀天街としてというか、このひろば自体は、確か私もずっと話していて、市長が一期目はてくるんが公約だったと思うんですよ。二期目の時に、まちなかに公園をと仰っていて、本当にありがたいと思っています。公園ができたことは。ほんと、公園がないんですよ。八坂公園と石手川公園、圓光寺しかないんですよ。番町小学校の生徒はどこで遊ぶんだって話すくらい、ないんですよ、だからそういう意味では、あの公園ができたことは、子どもを連れて行ってるのもそうですけど、非常にいい。デザインも良かったなと。

じゃあ、それに対して「アーバンデザインセンターは地元での知名度も含めて、何をやっているんだ、どうなんだ」っていう声も結構あって。ここは賑わい再生社会実験のとこなので、そういう意味で話しますね。アーバンデザインセンターのところではないと思って話しますけど、一緒なのでしょうけど。で、まあ、先ほど仰った稼ぐとか色々仰っていましたけど、実はそれ、やっている組織が既にあるんですよね。だからどうするのかと。例えば、まちづくり会社だったりお城下なんですけど。さらに、お城下は一般の企業も入って一緒にやっているし、まちづくり松山は、いろんなステークホルダー、株主と一緒にやっているしということで。お城下マルシェに、私も顧問で入っていまして、私が前に出るとよくないので、隠れているんですけど、私がお金も出しているし、ノウハウも提供していて。だから、エリアマネージメントではなくて、いわゆる区画をどうやって貸していくかっていう話。あの、先生方も知らない方がいらっしゃると思いますが、大街道と銀天街はチャレンジショップもやってきたし、まあ、いろんな、夜市なんかも出していて、これも有料で貸しているところと、無料で貸している場所もあったりして、いろんな実験を実はずっとしているんですよ。まあ、うちに関しては、50 年以上 70 年くらいって言われますけど。だから、そこから見る

と、アーバンデザインセンターが頑張るのはいいんだけれど、何をするのか、どこまでいくのかなっていうのと、稼いだところで、その稼ぎはどうなるんだろう。僕は批判するつもりはないので、ちょっとまとめながら話すんですけど、稼ぐってここに入れたい理由は知っているんですけど、これは、一般の人が知ったときに、これ大丈夫かなと思いますね。入れる理由は知っているんですよ、よく分かっているんですけど。だからいいけど、本当に稼ぐの？っていうことなんで。この主体で。で、アーバンデザインセンター自体も都市再生協で大学の先生も入っているし、まちづくり会社も出資していますし、どういう風にアーバンデザインセンターが変わっていくのかなっていうのを見るしかないのかなと。で、公民学といいながら、民がほとんど見えない、まあ出資はしていますけど我々。公と学がやっているんだから、それがまあ、公金使ってさらにどうなるのかと。まあ、世の中で今「稼ぐ」と言われているのは公金を使わない、もしくは、最初に使うけどその後は自分らで自走するということなので、その意味とはこう違ってくるので、この文書を表に出してしまうと、非常にほんと大丈夫って思います。ここで、懸念を示しておきますし、そういう意味では先輩とは言わないですけど、我々がやってきている身としたら、あの、当然何となく想像していただいたらいいと思うんです。あのひろばに、例えばいろいろなお店を呼んできました。恒常的に安い安いって目の前でやられてみてくださいよ。こういう問題、実は、銀天街、大街道ではずっと起こっているんですよ。銀天街大街道でイベントする時は、必ず近隣店舗とか住民とか来街者、そして行政にまで気を遣って、全部に気を遣ってやっているんですね。先ほど、振り込む中の貸す実験をここでやったらいいというのがありましたけど、何のストレスも掛からない、行政の親方日の丸でやるものが、果たしてどこに通用するのかという、じゃあだったら、いっそのこと、行政が買い上げていって、拠点を全部整備してやったほうがいいと思うんですよ。だから、公園いっぱいつくっていって、松山中に。それでやっていけばいいと思うんですよ。それでやっていけるんでしたら。それを市民がみんなが認めるんでしたら、いいと思いますよ。だから、そういう時代じゃないかなと思いながら話す部分があって、まあ、そこは否定しません。あの、やるんだというんなら良いと思いますよ。ただ、買うときの借りる時の地べたの地面はですね、公共が買う時の借りる時の経済効果を見ないと、固定資産税の絡みを見て、非常に矛盾が生じるだろうなというのが心配ですね、逆に。さっき僕が話していたのは、起こり得る話を批判的にというのではなくて、考慮しておかないと、これが成功だと言っちゃっても、絶対、横展開できないというのが分かりきっているんですよ、という話です。

先ほどの夜の話になるとですね、このまちって、非常にいろんな歴史があって、戦後焼け野原になってから、全部、一生懸命つくってですね、お金を入れてやったんですね。で、その時に、銀天街が愛媛で一番最初にアスファルト舗装をして、信号が最初についたのが一番町っていうところなんですよ。夜でも人はいたんですよ。人が減ったのもそうですし、高齢化と経済状況と水不足、夜の終電の時間短縮。これは、どこが悪いとかじゃなくて、そういう流れです。ちなみに、うちの店はPM9：30までやっています。でも、人は来ます。商売

によっては、夜でも人は来ます。ちなみに、コンビニは夜、結構売れているそうです。それも含めて、まちが悪いとか商店街とか悪いっていう文句じゃなくて、いい商売人をいい場所に集める施策をしないと本来は効果的にはならないということで、皆さんは分かっていただけると思うんで、以上にします。お金を有効活用しなければいけないということです。だから、アーバンデザインセンターはそういうふうなことの研究機関だという認識が多くあったので、稼ぐっていう経済闘争の中に入るってくるんだったら、それなりの覚悟をしないと知らないよということだけは言っておきます。必ず、文句は出ますからね。何をやったっても出るんですよ。いいことしたって、ゴミ拾いしたって、言う人は言うんです、必ず。なかなかないですけどね。落書きを勝手に消すなとか、本当にあるんですよ。っていうような活動を何年もやってきてますから。

【羽藤部会長】
はい。どうもありがとうございます。

【委員】
結論的には、あった方がいい。でもみんなの意見を聞きおったら、いろいろと複雑に絡み合って、これはもう、アーバンデザインセンターが「こういうやり方でやります」と切り捨てんと、敵と味方をはっきりせんと、このままじゃ、いつまでたっても結論が出んと思います。私は、アーバンデザインセンターが行政と協力して、こういうことで、こういう実験をしていって、成功しました、失敗しましたいう言い方をしてほしいんですよ。今日、皆に聞いたらですね、もっとも、もっとも、もっとも、もっとも。結構、もっともがあって、だいぶ積もったら、何するかも迷惑なことだけになるけんね。ああいうたら、こういうけん、やめましょう、これもやめましょう、やめましょうってなったら、もう、全然何をしよるか訳が分からん。私としては、まあ、もうちょい、こうやりますっていうのを、ここには迷惑かけないようにしますっていうのを、これは、ここまでにして、こうしますっていうのをもうちょいちょっと今後の方針で私が偉そうに言う訳じゃないけど、まあ、どうせ実験なら、失敗したって、別段問題ないんじゃけんやってみたら、今日はみんなの意見を聞いて、この人の意見を採用して、ここは聞くけどという感じで、どんとやってもらったらいいんじゃないかと思います。以上です。

【部会長】
かなり、まとめに近い感じですね。さすが、ありがとうございました。思い切ってすることも必要なのだろうということだと思います。

【委員】
中心市街地の賑わいの社会実験ですから、これが一番上ですので、それで、何をするのか

が３本柱や５本柱ではないかと思うのですが、この上の目標でされたらいいかと思います。

【部会長】
　分かりました。ありがとうございます。

【委員】
　皆さんの通りで言うことはないですが、あってよかったなあと思うことはあります。ただ、先ほど、皆さんも言われたように、研究機関なら研究機関として、こう、チャレンジする何かテーマをつくるならテーマをつくるとして、何かを選んでそれをやるっていう、ポジティブに松山にこれがあったらいいなって思うことを増やすっていうことに一回チャレンジするのか、また場所ではなくて人っていうふうにフォーカスして横展開していくのか、何かちょっと次の一歩を進んでいける感じであるかと思いました。

【部会長】
　研究開発とか言うじゃない。現場に近いところで、研究して開発するので、やっぱ、いいものができる。それが普通、大学は象牙の塔に閉じこもってやるし、町場は町場でやるし、そこはうまく回らないというところに対して、近いところでやりましょうということで置いたということなんですよ。だから、切り離すとまあ確かに楽ではあるんだけど、やっぱり、あのまちなかで、あるいは観光地であり、生活の拠点で課題が本当にいろいろ出てきていて、それをどう解決したらいいんだというところをみんなで一緒に考える上では、やはり一緒に考えていくという場を設けるという理念は、これはもう多分間違っていないと思うんですよ。だから、「ここは遠慮してもらえませんか」とか「儲けるんやったら、それ違うでしょう？」ということをどう分けながら、まちの魅力をどう高めて、まちの問題をどう解決していくのか、これを全力でやらないと、もうすぐバブル弾けますから。もう、大変なことですよ。あっという間につるべ落としになるかもしれない。だからやっぱりそこをどう頑張るのかっていうのは大事な視点じゃないかなというふうに私は思いました。

【事務局】
　バブルという話もあります。とはいえ、松山市の中心部では、民間主体の再開発っていうのが複数個所検討されていて、そこには、やっぱり、パブリック空間というのがどうしても必要になってくるんですが、そこで、ハード、当時ソフトですかね。ソフトをどういうふうに設えていくかというのが、地元の悩みでもあるんだけれど、再開発っていうのは一つの面としての新しいまちをつくるということなので、となると、そこでのエリアマネージメントが必要になってきます。そこで、稼ぐということが、必ず概念として入れておかなければいけないと思うので、そういったところでは検証していくというのも、一つの研究機関としては、社会実験の方もあるのかなというふうに感じています。

【部会長】
　エリアマネージメント。それは、最初に言われたような話に戻ってくるのだけど、まあ、そこは、まちに根本、大事だということだよね。

【委員】
　稼ぐという言葉が違うんですよ。維持していくというかね。儲けるというと、なんか利益をあげるみたいな。

【部会長】
　稼いでもらうためのサポートをして、そこで、ちょっと自分たちができるようにするというのが、多分仰っていることなのですよね。

【委員】
　持続可能的になるためには、ある程度収入がないといけないのですが、稼ぐっていうのではなくて、なんか、いい言葉があるといいのですけど。そこは、変なイメージを与えてしまうというのはあるかなと思います。

【部会長】
　パブリックが介在している量っていうのは、やっぱり欧州とかの方が圧倒的に高いからね。空間も含めて。要するに個々の商いっていうのは全てだっていうことで、結局やっていくと、こうなっているという状況から、どうやってまち全体でやっていくのかっていうのは、すごく考えないといけないよね。次の世代に向けて、とは思う。まちに入れるお金ももっと増えていいと思うんだけどちょっと遠慮もあるじゃない、市としても。だから、そこら辺がお互いに遠慮している、お互い踏み込み過ぎても、ちょっとうまく回らないことになるので、その辺りでちゃんと調整して、はっきり宣言してね、誤解を受けないようにやる。最後にちょっと言っていただいたんで、非常に良かったし。あと、拠点を少し広げていく、ネットワーキングしていったらという、かなりポジティブなコメントもいただきましたので、まあ、そういったところを強化していくということかなあというふうに思います。

【事務局】
　2年ぶりに出させていただいて、かなりレベルが上がったというか、課題が出てきて、実験したそれも成果じゃないかと思っております。つくる時にも議論があったと思うんですけど、イベントを何でするかといったら、まあ、アーバンデザインセンターも含めて、まちづくりの拠点として、色々つくったんですけど、まちづくりはほとんど関係ない人がほとんどなんですね。まちづくりやろうやろうと言ってやる人なんか誰もいないんで、まちづくり

に関係ない人を対象にイベントをやることによって引っ張り込んで、そこで、松山はこういうまちになるんだとか、ビジョンを示したり、プロジェクトを見てもらったりするためにイベントをしようというところから、多分、最初スタートしたんだと思うんですよ。イベントをしたらなんぼでも人は呼べるんで、人数を増やすことは可能なんですけど、そういうことをしたんでは、イベントになってしまって、実際まちづくりに携わってもらう人とか、まちづくりに関心を持ってもらう人とか、まちを使う人とか、まちを育てる人とかをつくるためには、もう全然意識のない人を引っ張りこんで、そういうところを高めるための賑わいの実験の中に、そういう理念もあったと思うんですよ。でも、そういうことで、頑張って色んなイベントをした時に、全然違う、そういうのに関わった人を知る訳なんですね。そういう人をちょっと一緒に入ってくれんですかというようなネットワークづくりのイベントという位置づけもあるんじゃなかろうかと思いました。

【部会長】

金沢の 21 世紀美術館がそんなふうに機能してるんだよね。うちら、そんなにお金をかけてないけどね。あれは、とにかくやるだけで人がわーっと来るから、地域文化でわーっと全部に散らばっていくんだよね。俺はもっとそうしてもいいんじゃないかと思うんだけど。なかなかそんな風にはいかないけど。

だって、金沢と松山、同規模じゃないですか。なんで向こうにできて、うちらにできない、そう思うと僕らが持っている常識がちょっと小さなところにあるのかもしれなくて、次の世代に受け継いでもらうことっていうのはもっとやっぱりみんなで。レベルが上がってきているんで、やっぱ引き続きこう、いろいろこういう場で議論できるといいんじゃないかなという風に思いました。

はい。では、ちょっと時間を超過してしまったんですけど、議論のところは終わったので、事務局にお返しします。

５．閉会

【事務局】

今日はお忙しい中、大変、ありがとうございました。多すぎてここでは取り上げませんが本当にたくさんの意見を頂きました。まずは今年度の様々な課題解決に向けて、新しいチャレンジを試みていく。で、まだまだ検証すべきことがあるのかなと思いますので、継続についても少しちょっと検討はさせていただきたいと思います。そうしましたら、これをもちまして、第 8 回の社会実験賑わい再生社会実験の専門部会を終らせていただきます。本日は、どうも、ありがとうございました。

以上